

# 朝風

No.19



令和6年3月7日



朝日中 HP QRコード

## 卒業式で伝えた事…令和5年度 第34回卒業式 式辞より

<前略>…さて、卒業生のみなさん。あなたがたは、入学当初から、朝日中学校の掲げる「未来で生きる人間力」を育むため、心を磨き、日々相手の思いや考えを受け止め、その中で自分の意思を伝えながら、目の前の様々な課題を、新しい発想で乗り越えてきました。

本年度、サミットの関係で例年より早い四月に実施した修学旅行では、まだ3年生になって間もなかったにもかかわらず、計画に基づいた、見ていて安心できる行動がとれており、学ぶべきところと楽しむ時間の切り替えが、しっかりとできていた皆さんの姿に、とても感心したことを覚えています。

中学校三年間で蓄えてきた皆さんの力は、その後も、様々な場面で多くの人を魅了してくれました。

体育祭で打ち立てた大縄跳びの記録はもちろん、何より文化祭での各クラスの合唱は、本当に質が高く、どのクラスが代表に選ばれてもおかしくないものでした。皆さんの気持ちが、歌声に乗り、見る人・聞く人のすべてに伝わるものでした。その眩しい姿は、今日後ろで皆さんの姿を見ている在校生にとっても、憧れであり、良き指標となったと思います。そんな皆さんもいよいよ今日、この朝日中学校を巣立つことになりました。これから未来に向かって羽ばたかれるみなさんに、ぜひ今日伝えたいお話があります。



# 夢

**「夢なき者に成功なし」**という言葉があります。知っている人も多いかと思いますが、この言葉は幕末動乱の時代に生を受け、私塾「松下村塾」を開き、のちの明治維新で重要な働きをする多くの若者に影響を与えた吉田松陰が唱えた言葉です。もう少し丁寧にこの言葉を紹介すると、**「夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。」**となります。

「夢なきものに成功なし」と言われますが、本当に夢のない人に成功はないのでしょうか？逆に、「夢があれば、成功する」のでしょうか？

夢があっても叶えられない人は世の中にたくさんいますから、「夢があれば、成功する」とは限りません。しかし、**「成功する人に夢はある」**は正しいと言えるでしょう。成功した人たちはみな夢をもっていました。全ての成功の始まりは「夢」をもつことから始まります。そして夢をもったなら、実行に移してください。成功する人は、夢見るだけで成功することはあるはずもなく、常日頃からの努力と挑戦を継続する実行力があるはずで、実行する人は、今やるべきことを確実に、計画的に実行することが上手です。計画を立てられる人は、一つ一つの計画をクリアしていった先のゴールを鮮明に描いています。その計画の先に必ずゴールとなる目標があり、理想があるはずで、そして、理想がある人には、実現したい夢があるのです。

ですから、是非ともみなさんには、**「理想をもち、計画し、実行する。」というプロセスをやり遂げ、自分の手で夢をつかみ取って欲しい**と思います。

もう一つだけ皆さんに考えてほしいことがあります。それは年明けすぐに発生した能登半島地震から感じた事です。亡くなられた方々には、心からお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々にもお見舞い申し上げたいと思います。被災地の皆様の安全と一日も早い復旧・復興をお祈りいたします。……と、口ではもっともらしいことを言っても、本当に自分事として捉えている人が、どれ位いるかということです。「義援金に協力したから」とか、「ボランティアに参加したから」などこれらも勿論、立派な行為であり復興のための協力には違いありませんが、私も含めて皆さんに聞きたいのは、「そこに住む人たちの気持ちをくみ取っているか」・「自分の町のこととして捉えられているか」ということです。

みなさんが身につけてきた**「人間力」の中で、一番大切なのは、おそらく学力ではないはず**です。「相手の立場や気持ちに寄り添う力」や「人のために自然と行動できる姿」といった、数字では表せない力こそが、これから皆さんが生きていく世界において、何よりも大切になってくるのではないのでしょうか。



誰かのために尽くすことの真の価値は、物質的なものでは計れないものです。**他人のために何かをすることで、自身の成長が促進され、人と人との繋がりやコミュニティの形成がうまれます。また、そうした行為は自分の存在価値や生きがいを見つける手助けになる**ことでしょう。

どうかこれから先、みなさんも、多くのことにチャレンジしながら、己れを磨き、そうした中で相手の立場に立って考え、行動する機会を大切に、**これまで以上に「人間力」を高め、豊かな人生を歩んで行ってほしい**と思います。

ここ、ふるさと朝日で学んだことや、この素敵な仲間たちと過ごした喜びを胸に刻んで、これから先にある、輝かしい未来に向けて一歩ずつ歩いていってください。この一七八名に出会えたことを心から嬉しく思うとともに、立派に巣立っていく皆さんのことを誇りに思います。みなさんの今後の活躍を祈念しています。

最後になりましたが、保護者の皆様、3年間、本校教育活動へのご理解とご支援をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。卒業生の前途に幸多かれと祈り、式辞いたします。

令和六年三月七日 朝日中学校長 丹羽浩也



## 教育長告辞より学ぶ…



<前略>…さて、卒業生の皆さん。皆さんも普段からしっかりと意識されていたことと思いますが、皆さんの中学校生活は、単なる知識やスキルを身につけるだけでなく、**未来で生きるための「人間力」を築く場**でもありました。

人間力は、他者との共感と協力によって形成されます。違いを尊重し、対話を通じて理解を深めることで、共に働く力が生まれます。これから先、新たな環境や出会いが待っています。**辛いとき、苦しい時は周りの人を頼ってください。どんなときも、お互いに助け合い、成長し合ってください。**

そして、誠実さもまた大切な人間力のひとつです。自分に正直でいることは、信頼を築く第一歩です。信頼されることで、より大きな夢や目標に向かって進む力を得ることができます。**これからも誠実な人であり続けてください。**

また、困難に立ち向かう強さも重要な人間力です。これまででもそうであったように、未来にも様々な試練が待ち受けていますが、その都度前向きな姿勢で立ち向かい、成長していくことが大切です。**困難を乗り越えることで、より強く、柔軟な個性を発揮できるようになる**でしょう。

人とのコミュニケーションや協力、援助希求行動、誠実さ、そして困難に立ち向かう強さ、これらの要素、すなわち「人間力」は、皆さんが目指す未来において大きな支えとなることでしょう。今後ぜひ、**「人間力」を高め続けてください。**

最後になりますが、卒業生の皆さんが、ここ朝日中学校で培った人間力を礎に更なる成長を遂げること、そして皆さんの未来が素晴らしいものであることをご祈念申し上げまして、朝日町教育委員会の告辞いたします。

令和六年三月七日 朝日町教育委員会 教育長 坂口 喜久夫



## 卒業生答辞より…

今年の卒業式は、久しぶりに在校生（2年生）が参列することができました。程よい緊張感の中、粛々と式が進行し、フィナーレを飾る答辞と合唱。。。感度の中、式が締めくくられました。なかなか文字からは、臨場感が伝わらないのが残念ですが、1年生のみなさんにも、卒業生の答辞から一部を抜粋して紹介しますね。

～前略～ 未来は不確かで、想像できないことばかりで、不安は尽きません。でも、僕たちは、**未来を信じて進んでいかなければならないのです**。大丈夫！僕たちには、最高の仲間がいます。これから先、それぞれの道を歩いても、どこにいても、**私たちの絆は変わることはありません**。だから、辛い時や立ち上がれない時があっても、**「笑顔満開」**でがむしゃらに突き進んで行けます。大丈夫！僕たちならできます。どんなに時が過ぎても、朝日中で培った、僕たちの**「自分を信じる気持ち、自分たちを信じる気持ち」**は、変わることはありません。だから、絶対に未来を切り開けます。大丈夫！僕たちの周りには、僕たち以上に、僕たちのことをわかってくださる人がたくさんいます。僕たち以上に、僕たちのことを考えてくださる人がたくさんいます。僕たち以上に、僕たちのことを**信じてくださる人がたくさんいます**。どんな時も、その人たちが支えてくれます。応援してくれます。だから、何があっても大丈夫！僕たちならやっつけられる！朝日中学校で学んだ、**「粘り強い日々の努力」「相手を思う優しい気持ち」「謙虚に感謝する心」**、『**未来で生きる人間力**』を胸に抱き、僕たちは、未来を信じて、自分たちらしく、全力で飛び立ちます。

最後になりましたが、お世話になったすべての人たちに感謝し、朝日中のますますの発展をお祈りして、答辞とさせていただきます。



中学校生活3年間の想いがいっぱい詰まった答辞でした。卒業生たちが身につけた**「未来で生きる人間力」**は、これから先の人生にとって**大きな財産**となっていくことでしょう。仲間とともに過ごした月日はかけがえのないものです。そして間違いなくこれからのみなさんにとっての**忘れることのできない宝物**となるはず。だからこそ、普段から相手の事を思い、最後に歌った学年合唱「春は いま」のように、**「ありがとう」という感謝の言葉**を、たくさん伝えられるといいですね。